

2008. 12. 3.

平成 20 年度 21 世紀文明研究セミナー

「神戸に根付くアート NPO と美術館」

担当：下田展久（NPO 法人芸術計画会議事務局長）

河崎晃一（兵庫県立美術館 常設展・コレクション収集管理グループリーダー）

- 1、 アート NPO とは？ NPO 法人芸術計画の活動を紹介

- 2、 神戸のアート NPO リ・フォーブ
なぜ？アート NPO？

- 3、 全国の例
NPO 法人 harappa（青森県弘前市）
黄金町バザール（横浜市）
 - ・ BANKART1929 Yokohama（横浜市）=横浜市の地域政策
 - ・・・地域とのつながりとアートの融合の場

- 4、 アート NPO の意義

- 5、 アート NPO と美術館
アート NPO：展示が街にでる
美術館以外ならではの展示
市民と近い（地域を巻き込む）

美術館： 名品を展示
予算
ステイタス

- 5、 その他



2008年5月1日、
CAPの新しいプロジェクト
海の上ではじまります。

芸術と計画会議 (C.A.P.) は営利を目的としない、文化活動を推進する組織です。
神戸を拠点として社会とアートを繋ぐ様々な活動を行っています。

STUDIO Q2 これまでのプログラム

MAY 5月

- 17(土) Lesson 「音楽史の1913年」
- 22(木)~27(火) C.A.P. delivery exhibition "CAP TABLE" アートホール神戸にて
- 30(金) Q2 Meet Up! ~STUDIO Q2で知る神戸の近代化遺産 (その1) 「新港突堤とQ2号上屋」

JUNE 6月

- 14(土) Q2 Meet Up! 「観月祭~Q2から見る豆名月~」をめざして公開ミーティング
- 21(土) Q2 Meet Up! 「すみさんの現代ダンス講座」(その1)
- 22(日)29(日) 初めてのトンボ玉 (ワークショップ/4回開催)
- 28(土) ジャワのゆうべ~ガムラン演奏体験会とコンサート

JULY 7月

- 5(土) Q2 Meet Up! 「すみさんの現代ダンス講座」(その2)
- 18(金) Q2 Meet Up! ~STUDIO Q2で知る神戸の近代化遺産 (その2)
「神戸税関と旧生糸検査所を中心に・小野浜海岸週の建築」
- 21(月・祝) 青銅音曲X~ジャワの影絵とガムラン~ワヤン・クリ

August 8月

- 3(日) CAPARTY vol. 29 「アトりん海学校」
- 9(土){おとなの}アート臨海学校/夜間部
- 13(水)~21(木) 夏期休館
- 22(金) シモダバンドコンサート
- 23(土) Q2 プラモ部 「プラモを買いにいこう!」
- 30(土) TOMO's Dining ~ワールドビールの夕べ

SEPTEMBER 9月

- 5(金)~7(日) にわのあかり 2008 / 相楽園アート遊山
- 13(土) Q2 Meet Up! ~STUDIO Q2で知る神戸の近代化遺産 (その3) 「港とともに歩む名建築」
- 14(日) 「SELECT! vol.02」~海のそばで観たいこの映画~
- 20(土)~10/7(火) Rendez Vous a la Mer ~海で会いましょう

October 10月

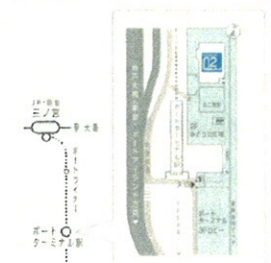
- 11(土) 観月祭 ~月をみて輪となる時間~
- 18(土)~11/1(土) 上村亮太郎展 「Lonely Planet-ひとりかふたり-」
- 13(月) 「夏の日の恋」録音会
- 24(金) 「絵の話:平面空間のいるいるなこと」
- 26(日) 「LYOTA'S ランチ」
- 25(土) Q2 プラモ部
- 25(土) TOMO's Dining ~「秋の味覚とワインの夕べ」
- 28(火) 「あがた森魚 惑星漂流 60周年!」~神戸・寄港記念上映とライブ~

November 11月

- 3(月) CAPARTY vol.30 「CAPクルーズ~まるで客船に乗っているような~」
- 8(土) Q2 Meet Up! ~STUDIO Q2で知る神戸の近代化遺産 (その4) 「港へ向かって歩こう」
- 16(日) 海上的雨暇~港とテラスと中国茶~
- 22(土) Q2 プラモ部



STUDIO Q2へのアクセス



STUDIO Q2 1400-0811 神戸市中央区東川崎町1-3-12
 休館日 土曜・日曜・祝日
 14:00-17:00 (入館無料)



「CAP HOUSE プロジェクト」とは

2002年4月、C.A.P. [芸術と計画会議] は特定非営利活動法人の認証を受け、これまで実験的に行われてきた旧神戸移住センターでの活動を「CAP HOUSE プロジェクト」として新たに再スタートすることとなりました。

神戸市によって新設される海外移民資料の展示と併せて、アートがより身近に感じられるようなスペースづくりを目指します。

■CAP HOUSE■

CAP HOUSE は、特定非営利活動法人「芸術と計画会議 (C.A.P.)」が旧神戸移住センターを使って企画・運営するアートプロジェクトです。アーティストが集いそれぞれの制作活動を行い、あらゆる人々が交流し、互いに新しい価値を創造していく場を築くための実験を行っていくプロジェクトです。C.A.P. は、1999年11月3日より約半年間、当時空きビルとなっていた旧神戸移住センターで「CAP HOUSE - 190日間の芸術的実験」を行いました。そしてこの実験で、アートを軸とした多くの人々との交流を生み出す際の「場」の重要性を確認することができました。一方、時期を同じくして世界各国の日系人から、海外移住を物語る歴史的建造物である「旧神戸移住センター」を保存整備してもらいたいとの要望がありました。

神戸市では2008年のブラジル移住100周年を機に、この建物が国立の「海外日系人会館(仮称)」として整備されるよう運動を推進しています。

C.A.P. は2002年の春より神戸市から委託を受け、建物の管理、海外移住者の資料展示、そしてCAP HOUSEの企画・提案を行っています。

【旧神戸移住センターの歴史】

昭和3年、国立海外移民収容所として建設されたこの建物は、何度か名称を変更しながら、海外移民していく人達の導入教育に利用されてきました。神戸移住センターという名称で移民業務を終了する昭和46年まで、全国から延べ25万人余りの移民をブラジルなどへ送り出しています。その後は神戸市立看護学校や海洋气象台仮庁舎など様々に使われ、1999年にC.A.P.により「CAP HOUSE-190日間の芸術的実験」が行われました。

C.A.P. [芸術と計画会議]

C.A.P. は1994年の設立以来、アーティストの立場からもっと身近に、オープンに芸術を共有する場が提案できないかと、神戸を拠点に、アートとの新しい出会いの場を作るため活動してまいりました。

個々の活動は大きいものではありませんが、会を重ねるたびに幅広い人の輪が広がり、多くの交流が生まれています。

1994 10 「これからの美術館」の提案
神戸市の小美術館構想に対して、アーティストの立場からこれから必要な美術館とは、どういふものを冊子にまとめて神戸市の文化振興課へ提案した。これを機に、集まった12人のアーティストたちでC.A.P.を設立する。

1995 5 「旧居留地ミュージアム構想」の提案
震災後、旧居留地全体を美術館にする街づくり構想を作成兵庫県、神戸市、旧居留地協議会などへ提出

10/28 CAPARTY Vol.1 を開催
フランス(マルセイユ)、スイス(ベルン)のアーティストから贈られた義援金を受けジーベックホールにて3部構成からなるワンデー・アート・パーティーを開く。以後、C.A.P.の主催する様々な催しを"CAPARTY"として開催していく。

1996 6/8 CAPARTY Vol.2 アート・セミナーを開催
ベルン(スイス)の美術館館長、ウーリッヒ・ルーク氏を招いて、レクチャー「クンストハーレ、ベルンにおける80年代作品とその発展」を開く。

11/3 CAPARTY Vol.3 「のぞき穴から見た街」を開催
震災後、変化していく街(神戸、旧居留地)の様子を参加者が撮りつきりカメラで撮影。街を再確認するワークショップ。後に「のぞき穴から見た街」記録本を刊行。

1997 3/25 CAPARTY Vol.4 「もっと知りたい、メセナって何？」を開催
各方面のアートにたずさわっておられる方々から、各々の違った角度のメセナについての意見をいただく。

11 CAPARTY Vol.5 「アート・ポーレン」を開催
神戸、旧居留地内に散らばられたアートを参加者が訪ね歩き、直接アーティストとコミュニケーションをもち理解を深めてもらう参加型の展覧会。14人のアーティストがそれぞれの方法で参加者とかかわりを持った。

1998 5 CAPARTY Vol.6 アートセミナー「体験型ミュージアムの出現」開催
「来るべき芸術」のためのワークショップ代表・石黒敦彦氏を招いてのアートセミナー。

11 CAPARTY Vol.7 「観光-なんでもない一日」を開催
神戸・北野町、旧居留地とそれらを縦に結ぶトアロードを観光のエリアとしCAP独自の視点で捉えた観光の在り方を提示した。また特製ガイドブックも発行した。

1999 11/3 CAPARTY Vol. 8
「CAP HOUSE-1 90日間の芸術的実験」を開催
かつてのブラジル移民収容所だった建物を神戸市から借り受け、「100人大掃除」からスタート。その後アーティストがアトリエを作り、メモリアルルームやCAP ギャラリーも設置。アーティストのプレゼンテーションやレクチャーを行う「イブニング・アートパーティー」、A.K.J.「披露宴」、メモリアルルームでの「駅伝トーク」、音の研究会「パーソナルミュージックパーティー」、「映画上映会」、ミニコンサートやパフォーマンスを集めた「さくらの日」、トラベリングミュージアム「メビウスの卵展」など次々と新しい催しが企画・開催。5月の締めくくりに「welcome to CAP HOUSE」が行われ、オープスタジオにダンスパフォーマンスやコンサート、ワークショップなど参加したアーティストが半年間の成果を披露し、5月10日に閉館した。

2000 11 CAP House Makes a Comeback
CAPARTY Vol. 9「CAP HOUSEでバザー1」
C.A.P.が神戸21世紀復興記念事業へ参加することで、CAP HOUSEも再スタートすることができた。オープンを記念して今回集まったアーティストが各々のグッズを並べるお店を開店。バザーの終わりはバラエティーに富んだ品々のオークションを行い収益金はCAP HOUSEの運営に充てられた。

2001 5 CAPARTY Vol.10 「みどりの日」開催
昨年11月からCAP HOUSEで制作活動を行ってきたアーティストの発表会オープスタジオ、コンサート、ダンスパフォーマンス、ワークショップなど。とうじ魔とうじ氏をゲストに迎える。

7 CAPARTY Vol.11 「アート林間学校」を開催
CAPHOUSEのアトリエで制作活動しているアーティストが、各々の考え方、制作方法を元子供から大人までを対象に行った夏期の芸術講座。「Acte Kobe プロジェクト 2001」のために来神していたフランス、マルセイユのアーティスト達も講師として参加し、24の様々な講座が開かれた。

9 「居留地映画館」の開催
神戸21世紀復興記念事業として開催。神戸・旧居留地全体を映画館と見立て、参者には街のあちこちから出会う様々な種類の光と影を頼りに街散歩を楽しんでもらった。2001人の神戸の元気な笑顔を集めビルの壁面に大きく映し出した「ビッグスマイル 2001」。仮設野外スクリーンでは無声映画を弁士と染団付きで上演し、またオリジナル3Dアニメーション、ホームビデオのリメイク作品も上映した「テアトル56」。「スリットショー」では9組のアーティストが街の隙間に光と影を使った作品を設置し、「光と影のお話」には多彩なゲストに映像の魅力について語っていただいた。その他「made by Kid's」「屋上で・カフェ」「ビデオカフェ・キャビン」「映像ワーク ショップ」など11のプログラムで構成された。

10 CAP HOUSE 再び閉館。
CAPは非営利活動法人格(NPO)を取得するため準備にかかる。

2002 4 C.A.P. NPO 法人格取得
「非営利活動法人 芸術と計画会議」となる。

5 CAP HOUSE プロジェクト開始
C.A.P.のNPO法人化を機に、これまで実験的に行われてきた旧神戸移住センターにおけるでの活動を「CAP HOUSE プロジェクト」として新たに再スタートさせる。